

メディアプロフェッショナル・コース授業体験ウィーク

2014年7月7日(月)～11日(金)

メディアプロフェッショナル・コースの授業を、在学生の視点で体験できます。詳細は6月上旬、Webで発表します。

講演会 + メディアプロフェッショナル・コース進学説明会

*事前申込不要

2014年7月11日(金)

16:00～19:00(開場15:30)

会場: 名古屋大学文系総合館7階 カンファレンスホール

第一部 16:00～17:15 講演会

「スペシャルドラマ『坂の上の雲』制作裏ばなし」

講演者: 菅康弘 (NHK名古屋放送局長)

司会: 河村雅隆 (名古屋大学大学院国際言語文化研究科教授)

●大河ドラマなど様々なドラマ番組を手掛けてこられた菅氏に、テレビドラマの魅力と可能性について存分に語っていただきます。

第二部 17:30～19:00 進学説明会

コース・教員紹介/在学生からのメッセージ&進学相談

メディアプロフェッショナル・コース 入試情報 2015

博士前期課程	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
入学者実績	10名(36)	11名(28)	9名(17)	11名(25)	10名(18)

(カッコ内は志願者数)

博士前期課程Ⅰ期入試スケジュール

出願期間 2014年8月4日(月)～8日(金)

入試日程 2014年9月10日(水)～11日(木)

合格発表 2014年9月12日(金)

博士前期課程Ⅱ期および博士後期課程入試スケジュール

出願期間 2015年1月6日(火)～13日(火)

入試日程 2015年2月12日(木)

合格発表 2015年2月13日(金)

願書請求・入試に関するお問い合わせ

名古屋大学大学院国際言語文化研究科 入試担当
〒464-8601 名古屋市中種区不老町B4-5(700)
TEL:052-789-4881(直通)

メディアプロフェッショナル・コースWEBサイト

<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/media/>

ジャーナリズム
広告・広報

メディア政策
メディア・コンテンツ
メディア研究

名古屋大学大学院
国際言語文化研究科
国際多元文化専攻

メディアプロフェッショナル・コース
2015

メディアプロフェッショナル・コースについて

〔新しい時代をリードするメディアのプロ〕

インターネットの拡大、情報技術の進展で、人類の情報活動が質的・量的に大きく変化しています。ますます重要性が高まる「メディア」を担うプロを育てます。

情報メディアに関する高度な知識と理論、情報の的確な評価、情報の創造・流通・交流に関するさまざまなコーディネート、効果的な情報コンテンツの制作と発信——そんな力を備えた人材が求められています。マス・メディアだけでなく、さまざまな企業・機関・組織でも、広報・宣伝・情報発信の専門家が必要になっています。

〔専門的技能の習得を〕

従来のオン・ザ・ジョブ・トレーニング(OJT)による人材育成に代えて、企業は幅広い社会・文化の理解力と創造性を兼ね備えた人材を求める傾向にあります。そんなニーズに応える新しい養成機関として、本コースは設立されました。

〔メディア企業がバックアップ〕

当コースは、中日新聞社、NHK、電通、東海テレビなどの協力で、これら企業から客員教授、講師陣を迎えた社会連携を柱にしています。インターンシップも取り入れています。新聞現場論、テレビ報道論、広告コミュニケーション論、新聞制作論、民間放送論などの授業も好評を得ています。また、2009年度より、東海エリアを拠点とする日本有数の企業の協力を得て、企業広報論をオムニバス形式に展開し、理論面・実務面での強固な教育体制が実現しています。

独自の修了方法

大学院前期課程では、プログラム制を導入し専門性の向上を図ります。

- 論文作成プログラム
→修士論文を執筆
- コンテンツ作成プログラム
→コンテンツ(新聞記事、映像作品など)を作成

学生の研究面における個別的指導を充実させるため、指導教員に加え、上記二つのプログラムに対応したアドバイザー・グループを設置します。この教員集団が、個々の学生の研究進捗状況を把握し、助言します。

大学院博士後期課程では、前期課程の研究をさらに深化させるため、各研究室に所属しながら研鑽を積みます。また、コースで実施するプロジェクトにも前期課程学生とともに取り組むことが出き、理論面の精緻化はもとより、実学面からも研究の強化が図られます。

想定する入学者

- 大学卒業者(人文・社会・理科系など専門を問わず)
- マスメディアで働く社会人
- 企業、行政、NPO、NGO等の広報担当者

想定する進路

- メディア企業の社員、ジャーナリスト
- 企業、行政、NPO、NGO等の広報・メディア戦略担当者
- メディア関連事業の起業家
- メディア研究者

修了生の主な就職先

〔新聞・通信〕

中日新聞社(2名)、日本経済新聞社、毎日新聞社、静岡新聞社、エヌ・エヌ・エー(共同通信グループ)、スポーツ報知、インサイトチャイナ

〔放送〕

NHK(番組制作職・取材職各1)、東海テレビ(2名)、石川テレビ、NHKプラネット、エフエムとよた、中国国際放送局(CRI)日本語部、Primeworks Studio Sdn Bhd(マレーシア)など

〔広告〕

電通、電通名鉄コミュニケーションズ、マッキンゼーワールドグループ・モメンタムジャパン、アサツー・ディ・ケイ、JTBコミュニケーションズ、読売広告社、びあ、オークローンマーケティングなど

〔製造業〕

東芝、富士通、日本IBM、アサヒビール、任天堂、トヨタ自動車、ダイハツ、プラザー工業、アイシン精機、アイシン・エイ・ダブリュ、東海ゴム工業、東京製綱など

〔その他〕

イオン、ニトリ、トヨタツーリスト、全日空地上サービス、住宅金融支援機構、日本体育協会、名古屋産業振興公社など

〔大学〕

一橋大学、金城学院大学、東海学園大学、中日本自動車短期大学など

教員一覧

河村 雅隆	教授(メディア論、メディアから見る欧米社会論)
中村 登志哉	教授(政治学、国際関係論)
Edward Haig	教授(メディアディスコース分析論、メディア英語)
小川 明子	准教授(コミュニティ・メディア研究、メディア論)
後藤 明史	准教授(教育学)
井原 伸浩	准教授(アジアのメディア、国際政治)
山田 哲夫	客員教授(中日新聞社)
川上 久明	客員教授(電通)

